

25 年 プロ野球長野県出身選手の活躍

上原 昇（2組）

11月2日（日）の午後、MLB ワールドシリーズ（WS）第7戦をTV観戦した後、興奮状態でこのレポートを書いています。連日の稀に見る熱戦が続く中、ドジャーズがブルーレイズを破り連覇を果たしました。山本由伸投手が MVP に選出されるなど後世に語り継がれるであろう WS が終わりました。

NPB 日本シリーズも 10 月 30 日にソフトバンクが阪神を倒して日本一になり、今年の日米プロ野球シーズンが幕を閉じました。

毎年この時期、（勝手に）長野県出身のプロ野球選手の活躍を纏めていますので、お付き合いください。

以下の3選手（写真）は1軍での実績を残していますが、他の選手は残念ながら期待に応えることはできませんでした。

▼牧秀悟（横浜 DeNA ベイスターズ、内野手、中野市出身、入団5年目）、順調に実績をかさねてきたハマの若大将、今季は怪我に苦しんで不本意な結果に終わる。93 試合（1 軍出場）、364 打数 101 安打、打率. 277、16 本塁打（HR）、49 打点は、いずれもワースト記録。8 月に登録抹消してから2カ月後の10月に復帰して元気な姿を見せた。来季の復活を期待したい。



▼赤羽由紘（ヤクルトスワローズ、内野手、松本市出身、5年目）、103 試合、258 打数 54 安打、打率. 258、2HR、19 打点、いずれもキャリアハイの成績。

投手と捕手以外の7ポジションを守る異才のマルチプレイヤーは「来季は調子の波をなくし、違った姿を見せたい」と語る。



▼高寺望希（阪神タイガース、内野手、上田市真田出身、上田西高校卒、5年目）、開幕1軍入り、5月には初HR、67 試合、134 打数 31 安打、打率.231、2HR、7 打点、日本シリーズにも初出場して5回戦では2安打を記録。上田西高の恩師、吉崎琢朗監督はシーズン前に「5年目なのでそろそろ結果を



残さない」と期待を述べていたが、どう評価しているか？

▼直江大輔（読売ジャイアンツ、投手、長野市出身、7年目）、今季の1軍出場無し。10月に戦力外通告

▼笹原操希（読売ジャイアンツ、外野手、長野市出身、上田西高卒、4年目）、13試合に出場するも、実績を残せず、10月に自由契約となるも育成選手再契約

▼内田湘大（広島カープ、内野手、小海町出身、3年目）6試合出場9打数2安打、打点0、「チャンスは少ないが、死に物狂いで頑張る」と語る。

▼水上由伸（西武ライオンズ、投手、上伊那郡出身、5年目）、5試合登板に終り、10月に戦力外通告。元新人王、球速が戻ればまだやれるか。

▼宮澤太成（西武、投手、長野市出身、2年目）、出場機会なし。

▼権田琉成（オリックスバファローズ、投手、長野市出身、2年目）、9試合に登板して、10月にプロ初勝利1勝をあげる。

▼横山聖哉（オリックス、内野手、上田市出身、上田西高卒、2年目）、2試合に出場して安打0に終る。

・町田行彦氏（1934年、長野市生まれ、長野北高卒）が今年の9月に91歳で死去。町田氏は当時の国鉄スワローズに入団して、1955年に31本塁打を記録して本塁打王に輝きました。

（2025年11月2日記）

以上